



ユビキタスオフィス実現に向けたNTTソフトウェアの モバイルセントレックスソリューション 「ProgOffice」

- NTTソフトウェアは、独自開発の無線制御技術を搭載したモバイルセントレックスソリューション「ProgOffice（プログオフィス）」の販売を9月1日から開始している。同社では、内線数500までの中規模企業をターゲットとしてProgOfficeを展開。今後3年間で15億円の売上を目指すとしている。

業務システムとの連携を指向

NTTソフトウェアは8月30日、独自開発の無線制御技術を搭載したモバイルセントレックスソリューション「ProgOffice（プログオフィス）」の販売を9月1日から開始すると発表した。

ProgOffice（Progressive+Office）は、無線通信環境における問題点を他社に先駆けて解決し、無線LAN環境でも安定した通話を実現できるほか、独自開発しているため新機能追加や業務システムとの連携など顧客の導入計画・形態にあわせたカスタマイズが可能で、高い拡張性を持つ。

モバイルセントレックス分野への参入について同社常務取締役 伊土誠一氏は、「オフィス内では携帯電話を内線として利用し、オフィス外では同端末を通常の携帯電話として利用す

るといった音声インフラとしてのモバイルセントレックスを第1フェーズとすれば、私どもが提供するProgOfficeは、業務システムと連携するコミュニケーションインフラとしての第2フェーズのモバイルセントレックスを指向したソリューションです。音声系と、グループウェアやSFA、CRM、ERPをはじめとするさまざまな業務アプリケーションシステムを十分に連携できる仕組みを作り、ユビキタスオフィスを実現するのは、現在のモバイルセントレ



ProgOfficeについて発表するNTTソフトウェアの伊土誠一常務取締役(左)と寺中勝美取締役(右)

ックスを牽引しているIP-PBXベンダではなく、システムインテグレータの役割。さらに、私どもは通信システムと業務アプリケーションの双方に経験の深いことが、他のシステムインテグレータに対する優位性になります。」と述べている。

独自開発の高度な無線制御技術による高接続性が最大の特長

ProgOfficeは、市販のハードウェア、Linux、PBX機能パッケージをベースに、キャリアグレードのサーバシステム、及び第1フェーズの課題を解決した無線LANシステムを実現したもの。中核となるのはSIPサーバソフトウェアと無線アクセスコントローラで、前者はNTTのネット



スライド1 第1フェーズと第2フェーズのイメージ

ProgOfficeの優位性	
<p>■ 当社のモバイルセントレックスソリューション「ProgOffice」は、自社でソフトウェアを開発しています。そのため多くの類似製品と比較して下記のような優位性もっています。</p>	
優位性	説明
1 高接続性 (つながる工夫)	当社が独自に開発した無線制御技術を採用し、無線LAN環境でもできる限り通話を可能にし、音声品質を向上させる制御が可能です。 (特許出願中)
2 高可用性 (使い続けられる工夫)	SIPサーバはNTT研究所で開発されたものを利用しており、NTTの通信事業者としての品質レベル(キャリア・グレード)を有しています。
3 高カスタマイズ性 (独自開発による仕様変更)	自社開発であり製品内部仕様を把握していますので、新機能追加や業務システムとの連携など、お客様のご要望にあわせてカスタマイズが可能です。
4 マルチベンダ対応	当社はハードウェアメーカーではないため、メーカーに依存しない中立的な立場でシステムを構築致します。利用可能端末も順次拡大予定です。

スライド2 ProgOfficeの優位性

ワークサービスシステム研究所で開発されたものを利用し、後者は完全に自社で独自開発している。

ProgOfficeの優位性として、①無線アクセス・コントローラに無線LAN上で接続性を向上する工夫が盛り込まれていること、②SIPサーバの可用性や信頼性が高いこと、③自社開発であるためカスタマイズや機能追加が柔軟にできること、④さらに端末についてはマルチベンダに対応すること、の4点をあげている(スライド2参照)。

特に無線アクセス・コントローラについて、同社取締役 モバイル&セキュリティ・ソリューション事業グループ長 寺中勝美氏は、「無線制御技術を利用した機能を独自開発、携帯電話を内線利用したときの“音声途切れる”や“電話がかからない”などの通話品質の課題を解決しています。例えば、無線IP電話の電波状態やアクセスポイントの利用状況を把握し、通話に適したアクセスポイントに自動的に迂回して

接続する機能や、端末が無線LANのエリア

外に出たことを短時間のうちに自動検知し、転送する自動圏外転送機能、各端末の電波状態をより良く維持するために接続するアクセスポイントを自動制御する機能、無線アクセスポイント間で接続端末の偏りを平準化する機能なども搭載しています。」と説明した。

図1にProgOfficeのシステム構成例を示すが、基本仕様は次のとおりである。

内線仕様は、最大収容端末数500端末、接続可能端末はNTTドコモN900iLのほか、固定IP電話、ソフトフォン。接続可能アクセスポイント数は32個(拡張可能)、無線部は暗号化、端末認証、RF監視、負荷分散、輻輳制御を備える。

外線仕様としては、ひかり電話ビジネスタイプ、INSネット64、INSネット1500に接続可能。ゲートウェイの最大収容数は64まで。

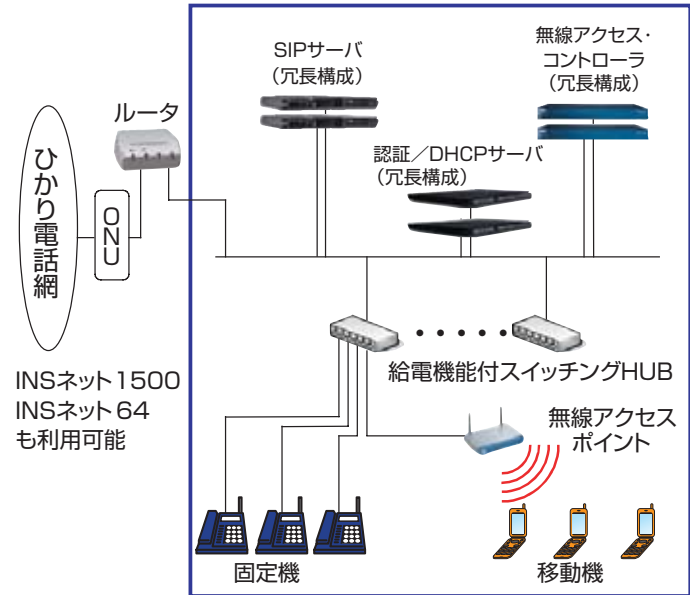


図1 ProgOfficeのシステム構成例

代表発着信機能、保留機能、転送機能、留守番電話、電話会議、ワンナンバーシェアリングなどのサービスが実現できるほか、ひかり電話コンバータ内蔵、FOMA SIPプロトコルコンバータ内蔵、IP FAX対応も基本仕様に盛り込まれている。

価格は、最小構成(N900iL×40台、固定IP電話×10台)で約650万円となっている。

直販に加え、NTTグループの法人営業経由や、パートナー企業経由で販売。保守は東電通など、全国規模の保守サービス網を持つ企業と提携して提供していくという。

●お問い合わせ先●

NTTソフトウェア(株)
ProgOffice担当 吉場/森広
Tel : 03-5782-8683
E-mail : progoffice@cs.ntts.co.jp
URL : http://www.ntts.co.jp/
products/progoffice/index.html